

地蔵盆は毎年実施。世話  
人会のメンバーがちょうち  
んや竹灯籠で飾り付けを  
し、筑後市の林鐘院、三宅

明信住職が読経。参拝者は  
地蔵尊に向かって手を合わ  
せ、水害で犠牲になった人  
を思い、平穩無事を祈願し  
た。菓子などの振る舞いや  
竹灯籠の灯火のもてなしも  
あった。

また三宅住職が東日本大  
震災の復興支援プロジェクトで全国各地を巡る和顔地  
蔵を持参。参拝者も「なでな  
で」と地蔵に手を触れ、熊本  
地震や九州北部豪雨など続  
く災害を思い、復興や平和  
を祈った。(高田 裕子)

## 復興や安全願う

### 川で亡くなった人供養 矢部川沿い延命地蔵盆

みやま

みやま市瀬高町小田の矢部川沿いに建つ「延命地蔵尊」の地蔵盆が24日にあった。参拝に訪れた人たちは、水害を防ぐ河川の護岸工事の際に人柱になった女児や川で亡くなった人たちの冥福を祈るとともに、被災地の復興、災害のない安全なまちへ願いを込めた。

地蔵尊は江戸時代の天保5(1834)年に建立。

矢部川は大雨の際に氾濫し、田畑などに大きな被害を与えていたことから、護岸工事で地元では「唐尾<sup>から</sup> 勿<sup>な</sup>」と呼ばれる勿(羽根)が造られたが、工事が難航を極めて縁起、しきたりに従い村の女兒(お染め)が人柱で犠牲になり、その遺徳をしのび建てられた。現在は地元の人らの世話人会が守っている。



延命地蔵盆に集まってきた人たち